

## 第5章

# 時代とともに変化する 観光ニーズへの対応

本市には、十和田湖・奥入瀬渓流など観光商品になる有名ブランドがあります。また、生産量が多く品質に優れるにんにく、長いもなどの自慢の農産物や偉大な先人、新渡戸三代の功績が偲ばれる文化的遺産などの観光資源が数多くあります。

近年では、物産品、特産品づくりを図るために開発された地ビールや奥入瀬源流水、奥入瀬珈琲なども高い評価を得ていますし、2つの道の駅やパークゴルフ場も高い人気を誇っています。これらの観光情報を全国に発信し誘客を図ろうと、市観光協会では、県の物産協会や大規模キャンペーン推進協議会などと連携し、全国で物産品の販売や旅行会社への売り込みをかけているところですが、「十和田」ブランドの認知度の低さで苦戦をしているというのが実情です。これからは、消費者のニーズを満たすためのマーケティングと地域ブランドの情報発信が重要と考えています。

一方で、旅行ニーズが変化し、観光を取り巻く環境は激変しています。観光による消費額を増やすためには、滞在型と周遊型といわれる旅行商品の開発がポイントで、中でも宿泊サービスの向上と体験型メニューづくりがこれからの観光に求められています。常にリピーターの満足度を意識し、飽きさせない工夫が必要です。

市観光協会のホームページでは、今まで以上に、宿泊施設の紹介や、早朝ボランティアガイドなど、地域住民の取り組みを情報発信していきたいと考えています。さらに、近年増加傾向にある外国人向けの情報の多言語化が大きな課題となっていることから、十和田国際交流協会などと連携強化も検討して参ります。

4月に現代美術館がオープンし、県内外から大勢のお客さまを迎えています。駐車場、飲食店などの位置が分かりにくいのご指摘も受けています。これらの対応策として、飲食店マップづくり、まつり期間に駐車場などを案内する観光案内所の機能の充実、観光ボランティアガイドの増員などに力を入れて参ります。

東北新幹線全線開業が目前に迫る中、本市の観光振興の中核として観

平成20年4月1日に社団法人十和田市観光協会、十和田湖観光協会、十和田市物産協会が合併し、新たな十和田市観光協会が誕生しました。

本市が観光政策に力を入れる中、地元事業者と連携し、いかに地元が儲かる仕組みを作るかが課題です。最後に、十和田市観光の推進に向けての思いを社団法人十和田市観光協会の会長に伺いました。

光・物産振興機能を強化し、全市民もおもてなしのまちづくりを推進して参りますので、市観光協会のやる気と行動力にご理解とご協力をお願いします。

地域ブランドの情報発信とおもてなしのまちづくりを



社団法人十和田市観光協会  
会長 石川 正憲さん